



ベッドセンターにやってきたヘリドッグ太くん。多様な掃除道具に興味津々です。
ベッドセンターでは、1日約12台のベッドを隅々まで清掃除菌して、患者さんをお迎えする準備をしています。

診療科紹介 update

Vol.12 腎臓内科

TOPICS

- ・長崎県ドクターヘリ1万回出動達成
- ・新型コロナウイルスワクチンについて
- ・メンタルヘルスについて
- ・長崎医療センターホームページをリニューアルしました
- ・日本臨床外科学会「研修医award」を受賞しました
- ・OSCE(客観的臨床能力試験)を終えて
- ・大村市長が当院に来訪されました
- ・冬来りなば春遠からじ「？」

行事予定

看護部だより Vol.28

地域医療連携室からのお知らせ

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介

Update

Vol.12



腎臓内科

診療目標

1. 慢性腎臓病（CKD）の進行抑制による新規透析導入患者数の減少を目指した診療
2. 患者さんに寄り添った腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）の提供

腎臓内科は現在スタッフ2名、レジデント1名の計3名で診療を行っています。慢性腎臓病（CKD）、慢性腎炎症候群やネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急性腎不全などの腎疾患をはじめとして、二次性高血圧、電解質異常、透析患者の導入・管理、腎移植など様々な疾患にも対応しています。

1. 慢性腎臓病（CKD）の進行抑制による新規透析導入患者数の減少を目指した診療

わが国における慢性透析患者数は2019年末には34万4640人と報告されており、なお増加の一途をたどっています。新規透析導入となる原因疾患は、糖尿病性腎症、慢性腎炎症候群、腎硬化症をはじめとするCKDであり、包括的なCKD対策が新規透析導入患者の有意な減少をもたらす重要な手段であると報告されています。CKDとは、腎臓の障害（特に蛋白尿）、もしくはGFR（糸球体濾過量）60 ml/分/1.73m²未満の腎機能低下が3か月以上持続するものと定義されています。CKDは透析治療を要する末期腎不全の予備軍であるだけでなく、心筋梗塞や脳卒中の重大な危険因子であることが明らかとなっています（図1）。当院での新規透析導入患者数の推移を図2に示しますが、残念ながら減少傾向にはありません。地域の先生方と一緒に腎機能障害の進行抑制による新規透析導入患者数の減少を目指していければと思います。長崎県CKD対策検討委員会による長崎県CKD病診連携基準を図3に示します。該当する患者さんがいましたら、ご紹介頂ければと思います。

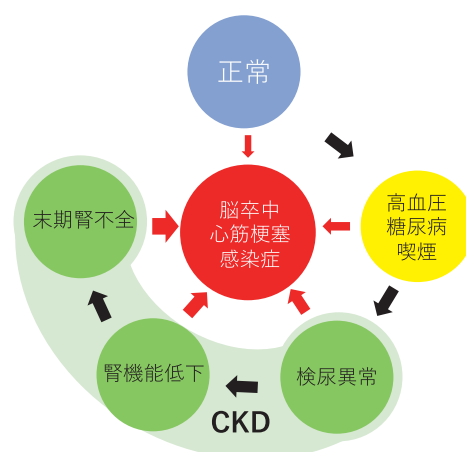


図1

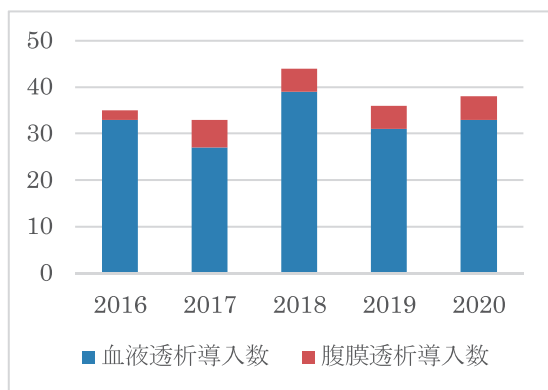


図2 当院での透析導入患者数

【かかりつけ医から腎専門医への紹介基準】

(長崎県CKD病診連携基準)

1. 高度の蛋白尿
(2+以上、または尿蛋白/Cr 比0.50 g/gCr 以上)
2. 蛋白尿と血尿がともに陽性(1+以上)
3. eGFR 50 mL/分/1.73 m²未満
(40歳未満ではeGFR 60 mL/分/1.73 m²未満)
(70歳以上ではeGFR 40 mL/分/1.73 m²未満)
4. eGFRの下降度
(1年間で25%以上、または5 mL/分/1.73 m²以上低下)
5. かかりつけ医が必要と判断した場合

図3

2. 患者さんに寄り添った腎代替療法(血液透析、腹膜透析、腎移植)の提供

●協働意思決定(SDM)による腎代替療法の選択

腎機能障害が進行してしまい腎代替療法が必要な場合は、血液透析、腹膜透析、腎移植の3つの腎代替療法の選択を行う必要があります。これらの治療法の選択のアプローチとして、協働意思決定(shared decision making: SDM)というアプローチが推奨されています。SDMは、医学的な情報や最善のエビデンスと、患者さんの生活背景や価値観など、医療者と患者さんが、双方の情報を共有しながら、一緒に意思を決定していくプロセスです。透析センタースタッフとも協力して、患者さんと一緒に最善の選択を行うことができるように努めています。

●腹膜透析診療

外来腹膜透析患者さんにより細やかな指導を行うため、2020年7月より透析センター看護師による指導も開始しています。また、新規に腹膜透析を開始した患者さんは、退院前に患者さん、病棟看護師、透析センター看護師、担当医で退院前の状態(腹膜透析メニュー、出口部ケアの方法など)の確認を行う取り組みも行っています。



●血液透析診療

内シャント機能低下に関しては、臨床工学技士と協働してシャント造影やシャント血管拡張術(PTA)を行っています。外科的処置が必要な場合には、泌尿器科との連携をはかり、閉塞した人工血管内の血栓除去やシャント再建などの対応を行い、患者さんが継続して透析医療を受けることができるように迅速に対応しています。また他科で透析患者の併存疾患の治療が必要な場合は、入院中の透析治療の管理を担当します。



おわりに

地域の先生方と一緒に患者さんに最良の医療の提供ができればと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。



長崎県ドクターヘリ1万回出動達成しました

院長 江崎 宏典

長崎県の救急医療において今や欠かすことができない存在となったドクターヘリですが、このたび1万回目の出動を令和2年12月28日に達成することができました。運航開始以来14年間、無事故で安全に運航できたのも、ひとえに関係者の方々のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

ドクターヘリは長崎県が実施主体となり、長崎医療センターが基地病院として平成18年12月に運航を開始しました。その後平成21年に1000回目、平成27年には5000回目となる出動を達成しています。そして今回の1万回の出動へつながるわけですが、このように出動回数が順調に増加してきたのはドクターヘリの有用性を各消防本部の方々に認知してい

ただいてきたことが大きいと思います。さらに出動件数の増加に伴い、担当のヘリドクターやヘリナース、また委託先であるヒラタ学園のスタッフの方々の負担が増えています。そういう状況下でも献身的に業務にあたっていただき、ありがたく思っています。

運航件数の増加に伴いリスクの増加が危惧されますので、安全な離発着のためにヘリポートの拡張、また機体の安全や保守のため格納庫の設置などのハード面の整備もおこなってまいりました。

長崎県ドクターヘリはこれまで以上に安全性に留意して、救急患者の救命率の改善と救急医療体制の充実に努めてまいりますので、引き続きご支援をお願いいたします。

1万回達成!!



平成20年
500回達成

平成21年
1,000回達成

平成23年
2,000回達成

平成27年
5,000回達成



TOPICS

新型コロナウイルスワクチンについて

臨床研究センター 難治性疾患研究部長 小森 敦正

Q1

新型コロナウイルス(SARS-CoV2) mRNAワクチンとは?

A1 SARS-CoV2が細胞に感染する際に必要な、スパイク蛋白(“抗原”蛋白質)の鋳型となるmRNAを使用した、新しいワクチンです。mRNAは蛋白質よりも分解されやすいため、微量のポリエチレングリコール(PEG)で修飾された脂肪ナノ粒子(LNPs)で包まれることで、安定化した状態でワクチン製剤となります。いったん**筋肉注射**されるとmRNAは主に免疫細胞内に取り込まれ、細胞質でスパイク蛋白へ翻訳され、**抗体産生につながる免疫反応**がリンパ節で引き起こされます。mRNAは翻訳された後に分解されるため、遺伝子に組み込まれたり細胞質に残ることなく、**免疫誘導後には体内から消失します**。

米国では2012年からLNPs技術を用いたmRNAワクチンの開発が始まり、さまざまなウイルス感染症に対する臨床試験が展開中でした。この新技術をタイムリーに用いることで、SARS-CoV2の遺伝子配列公開後わずか約11ヶ月というスピードで、SARS-CoV2 mRNAワクチンが緊急使用許可にまで至ったと思われます。

Q2

予防効果は?

A2 抗原蛋白質を直接使用する不活化ワクチンに比べて、(B細胞を介した)抗体産生能が強く、感染細胞を排除するT細胞誘導能も報告されています。16歳以上の成人を対象としたファイザー社mRNAワクチン(BNT162b2; 製品名『コミナティ』)国際第3相治験(ワクチン群18860例vs偽薬群18846例)では、3週間間隔を空けた2回の接種で、2回目接種7日以降の**Covid-19発症率(症状+PCRでのウイルス検出)**が95%も低下し、1回目接種後の**重症感染者数**も89%抑制されました(ワクチン群1例vs偽薬群9例)。無症候性感染も含めた感染予防効果については不明です。



Q3

アレルギー反応は?

A3 即時型アレルギー反応の重症型であるアナフィラキシー反応は、米国でのBNT162b2第1回目接種者100万件あたり11.1人であり、75%が15分以内に発症しました。不活化インフルエンザワクチンの10倍強の頻度となりますが、アナフィラキシー反応はワクチンに限らず様々な薬剤で起こりうる副作用です。アレルギー反応はPEGかLNPに対するものと考えられていますが、詳細は不明です。PEGで修飾された薬物に対するアレルギー歴がある場合の接種は、慎重になるべきでしょう。

Q4

副反応は?

A4 BNT162b2国際第3相治験では、注射部位の痛みが60-80%に、倦怠感が30-50%に、頭痛が20-50%に、2回目ワクチン接種後の発熱(38℃以上)が約14%に報告されています。免疫誘導能が強力なため、副反応も比較的高頻度であると考えられます。**副反応はあくまで免疫応答の副産物です。SARS-CoV2感染ではありません。**

Q5

まだ判っていないことは?

A5 BNT162b2国際第3相治験ではアジア人参加者が4.2%と少なかったことから、アジア人(日本人)でのワクチン効果と副反応出現頻度に関しては、不明な点が残っています。安全性情報を広く収集する目的で、国立病院機構を含めた独立行政法人病院医療従事者を対象とした観察研究が、2月17日から実施されています。

メンタルヘルスについて

新型コロナウイルス職員健康管理チーム

職員健康管理チームは、新型コロナウイルスによる第二『不安と恐れ』・第三『差別・偏見・嫌悪』の感染を防ぐべく活動をしています。この感染症は、災害と同じように全ての人々が被害者です。ウイルスに好き勝手させないためにも、自分自身の『気づく力』を身につけることが大切です。

当院ではストレスチェックを定期的に行い、メンタルヘルスサポートメンバーや、相談窓口を設置し、心の健康管理をサポートしています。ストレスのセルフチェックを行うことで自分自身の考えや、気持ち、振る舞いを、いろいろな角度から観察し、知らないことを知ることから始めています。地味に感じますが、自分の考えに気がつくことは最も大切です。その上で、1人で悩まず、まずは身近な人や同僚に相談することを促進しています。更なるケアが必要な人は、ストレスチェックなどの情報を元に産業医と相談し、スムーズに相談窓口へ繋がるように心がけています。またサポートメンバーに各職場での心

理的デブリーフィングを行っていただき、メンタルヘルスサポートメンバー全体の定期ミーティングで、各職場の改善点について話し合いよりよい環境づくりに勤めています。

“敵を知り己をすれば百戦殆^{あや}うからず” いつの時代も、正確な情報・データベースで相手を知り尽くし、自己認識・判断を見直すことが大切と教えられます。



TOPICS

長崎医療センターホームページをリニューアルしました

臨床疫学研究室長 山崎 一美

日頃より当院のホームページ（HP）をご利用くださりありがとうございます。

本年1月にHPをリニューアルしました。パソコンの他にスマートフォンやタブレットにも対応しています。変更した中から以下の3点をご紹介します。

1. 病気で悩む患者さんご家族の不安感を少しでも軽減するために“さくら色”を基本としました。
2. チャットボットを導入しました。これにより当院の情報をスムーズにアクセスできます。
3. 当院に初めて来られる患者さんのために受診の流れを動画で案内しました。



高度救命センター、看護部のコンテンツは1月に新しく更新され、利用者に有用な情報を提供しています。

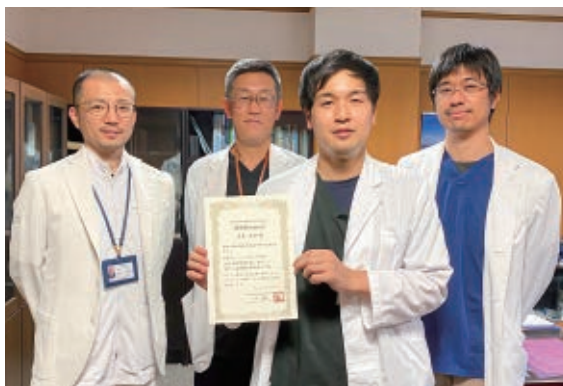
今後ともわかりやすく利便性の高いHPを目指しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



TOPICS

日本臨床外科学会「研修医award」を受賞しました

初期研修医 本多 弘幸



2020年10月29日～31日にかけて第82回日本臨床外科学会総会がWEB開催で執り行われました。「右半結腸切除後に発症した脾十二指腸動脈瘤破裂の1例」という演題で発表し、研修医award賞を頂くことができました。

実際に外科ローテート中に経験した症例で、もともと無症候性の正中弓状靱帯圧迫症候群があり、右半結腸切除術の際に回結腸動脈と右結腸動脈を切離したことにより、相対的に脾十二指腸動脈の血流が増えたことで脾十二指腸動脈瘤の形成と切迫破裂に至ったと思われた1例でした。正中弓状靱帯圧迫症候群は意外と有病率が高く（腹部CT施行例の7%に無症候性の腹腔動脈起始部狭窄を認める）、手術に際して動脈瘤の形成や破裂に注意が必要と示唆する症例で、その点をご評価頂けたと思っています。このような賞を頂くにあたり、発表の機会を提供し、ご指導いただいた外科の黒木先生はじめ多くの先生方に感謝申し上げます。今後もこの機会を励みに精進したいと思います。

TOPICS

OSCE (客観的臨床能力試験) を終えて

初期研修医 高尾 亮太

2021年1月30日(土)2年次研修医を対象に院内でOSCEが行われました。指導医の先生方や1年次研修医の協力の下、心肺蘇生・外科処置・胸部Xp・心電図・身体診察の5項目を評価して頂きました。

試験は基礎的な内容ではありますが、卒後3年以下の専門科に進んだとしても必要となる知識・技術ばかりで、医師としての基礎を再確認する良い機会になりました。同期と共に試験勉強をしていく中で、基礎とはいってもまだまだ習得出来ておらず、自

分の未熟さを痛感しました。OSCEで合格することが試験の目的ではなく、今回確認したことを今後の実臨床にどのように生かしていくかが大切であると思うので、これからも学ぶ姿勢を忘れずに医師人生を送ろうと思います。

最後となりましたが、休日の朝早くにもかかわらずご協力して下さった関係者の方々には、この場をお借りして深くお礼申し上げます。COVID-19の流行に伴い、感染管理にも配慮して頂きありがとうございました。



大村市長が当院に来訪されました

庶務係長 中村 郁弥

令和3年1月15日、園田裕史大村市長が当院に来訪されました。

市長は、新型コロナウイルス感染症受入病棟等を視察され、病棟の医師や看護師、スタッフ一同にねぎらいと感謝の意をつたえられました。診療現場の生の声を聴き、新型コロナウイルス対策の課題や医療従事者への必要な支援などについて、病院の現場とともに考えたいとおっしゃっていただきました。



TOPICS

冬来りなば春遠からじ「？」

形成外科部長 藤岡 正樹

有名な「ことわざ」のようにも思えますが、実は英国の詩人シェリーの詩が出典です。彼の詩「西風に寄せる歌」の最末尾にある「If Winter comes, can Spring be far behind?」を上田敏が訳したものとされています(訳については諸説あり)。一般には「雲外蒼天」や「一陽来復」と同義に「つらい時期を耐え抜けば必ずいい時期がくる」と気休めみたいなことを言っているように使われていますが、原典の最後には「？」があることに注目してください。日本語訳「冬来りなば春遠からじ」は断定形になっていますが、実は「冬来りなば春遠からじや？」と疑問形で訳すべきところの誤訳なわけですね。新型コロナ禍で将につらい冬となっている現在です。ワクチンが開発されたなどという明るい話題もありますが、これとて臨床上的効果や副反応については未知数であり「春遠からじ」と断定するのは樂觀過ぎるというもの。ここは「春遠からじや？」と気を緩めることなく

日々用心、精進すべきだと考える正月でした。

ところで2021年元日の病院駐車場側通用口の両側にある薩摩小梅の蕾の様子を載せます。植えてから6年たちますが、ずいぶん大きくなってきて、今年も小さく固い蕾をたくさん結んでくれています。彼女たちの姿を見ると「冬来りなば春遠からじ!!」と断定的な気持ちになります。2月に真っ赤な花を結ぶころには新型コロナ禍も終息の兆しを見せてくれているように祈念しております。



医療センター講演・研修・テレビ出演等(3月)

(敬称略)

CPC

開催日	時間	開催場所	内 容	講 師
3月16日(火)	18:00~19:00	人材育成センターあかしやホール	右上腕骨近位端骨折にて救急搬送された症例	症例担当:後藤大輔、野嶋朋洋、尾上祐大、熊谷知香、南部生妃 臨床指導:水田和孝、吉田悠哉 病理指導:添田李子、三浦史郎

看護部だより Vol.28

看護師特定行為研修 第1期生 修了式

特定行為研修担当 米村 かおり

令和2年6月1日に開講した看護師特定行為研修の第1期生3名の修了式が、令和3年1月29日に執り行われました。

共通科目252時間、区分別科目69時間の講義・演習・実習、実技試験を経て、10月から3か月間、高度救命救急センター、総合診療科、内分泌・代謝内科を中心に、医師や診療看護師の指導の下臨地実習を行い、すべての教育課程を修了いたしました。修了式では、「最新のエビデンスと豊富で質の高い臨床経験に基づいた医学的判断、患者に寄り添いながら展開される問診や多職種チームでの回診など、様々な経験を通して、医療の本質を実感し、自施設での役割発揮、患者・家族へ還元できるよう努力を重ねたい」と、研修生一同決意を新たにしていました。

修了者は、看護師としての視点に医学的な知識と技術が統合され、医師の手順書に基づいてタイムリーな特定行為(表1参照)ができるようになります。患者さんにとっては迅速な苦痛の緩和・症状悪化の予防、医師にとっては看護師へのタスクシフトが可能となります。また、高度な知識と技術を身に着けた修了者が現場で活躍することは教育的意義も高く、病院全体の看護の質の向上につながります。修了者が地域医療・高度医療の現場で活躍するには、医療従事者のみならず、患者さんやご家族のご理解が必要です。看護部といたしましても、特定行為に係る看護師の理解を広め、活躍できるよう支援していきたいと思っております。

実習にご協力いただきました患者さん・ご家族の皆様にご感謝申し上げます。また、8か月という長期間、研修生を送り出してくださいました施設の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、今後の修了者の活動をご支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

表1 当院の特定行為研修修了生が実施できる特定行為

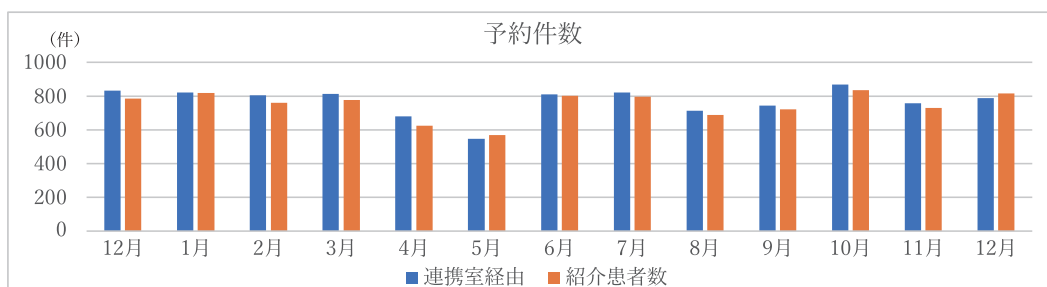
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	・侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・非侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 ・人工呼吸器からの離脱
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	・気管カニューレの交換
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 ・脱水症状に対する輸液による補正
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	・インスリン投与量の調整



地域医療連携室からのお知らせ

2020年1月から12月の実績報告

日々のご紹介ありがとうございます。COVID-19の対応に際しましては、各関連機関、各方面の方々に大変お世話になっております。2020年のご紹介状況をご報告いたします。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



◆紹介元病院所属医師会別

医師会	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計 (%)
大村市医師会	442	456	463	449	367	292	441	451	383	424	470	418	423	5,037 55.0%
諫早医師会	196	182	161	169	144	119	175	186	161	171	198	163	173	2,002 21.8%
南高医師会	59	56	43	55	40	25	46	50	40	36	48	41	52	532 5.8%
島原市医師会	39	35	58	45	44	46	56	44	40	29	59	56	55	567 6.2%
東彼杵郡医師会	21	21	15	17	18	6	11	24	24	20	19	17	27	219 2.4%
その他	74	71	65	77	67	59	82	65	64	63	73	63	57	806 8.8%
計	831	821	805	812	680	547	811	820	712	743	867	758	787	9,163 100.0%

◆紹介先診療科別

診療科	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
消化管内科	48	39	42	47	41	20	31	47	32	47	48	47	42	483
肝臓内科	41	30	39	43	28	18	31	43	24	28	54	36	39	413
呼吸器科	32	27	32	28	20	15	21	27	22	33	36	26	26	313
総合診療科	59	47	48	48	36	43	58	57	37	41	54	44	47	560
循環器科	37	34	29	33	37	21	27	29	30	25	40	28	36	369
神経内科	13	18	15	22	18	10	28	11	19	17	15	18	17	208
血液内科	11	16	11	12	5	4	10	11	7	10	9	5	5	105
内分泌代謝科	18	24	14	24	12	17	15	20	19	22	22	21	16	226
腎臓内科	19	17	13	12	13	12	19	11	16	4	22	8	9	156
リウマチ科	5	7	7	5	7	2	7	5	9	9	5	10	6	79
計	283	259	250	274	217	162	247	261	215	236	305	243	243	2912
眼科	62	71	71	85	65	52	63	61	49	59	73	61	57	767
産婦人科	66	81	59	85	72	52	70	62	72	57	68	69	75	822
耳鼻咽喉科	55	59	62	63	33	30	54	59	37	35	55	52	52	591
外科	41	42	33	33	37	27	38	40	38	41	43	32	51	455
呼吸器外科	6	5	5	4	3	2	3	2	6	5	8	6	4	53
皮膚科	30	18	25	16	23	29	41	33	28	37	29	32	30	341
精神科	6	4	2	2	2	4	4	2	7	2	3	2	2	36
脳神経外科	33	27	32	28	19	9	16	18	20	17	19	27	27	259
整形外科	23	23	20	14	18	12	26	23	22	22	17	12	13	222
泌尿器科	36	28	34	35	31	36	33	38	30	39	39	30	28	401
小児科	34	37	38	29	32	21	28	30	28	30	30	27	24	354
形成外科	27	30	30	25	23	23	34	50	38	22	28	33	34	370
心臓血管外科	3	8	8	7	8	11	7	7	9	9	9	6	9	98
放射線科	0	0	2	2	0	2	1	2	1	1	1	1	0	13
公開検査	192	151	138	113	100	77	155	140	118	135	147	127	143	1544

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にに行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対には断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する